

今だからこそ

# 災害に備えて

## 大切な生命を守る



熊本地震や集中豪雨で高まる  
新たな災害の危険性

4月14日(木)・16日(土)の熊本地震、6月20日(月)の1時間当たりの総雨量が150ミリの豪雨災害と、重ねて大きな災害が発生した本町。家屋の倒壊や浸水、土砂災害などで道路や橋りょうが通行止めとなるなど多くの被害が発生しました。

気象庁は、「熊本地震は、大きな地震が2回起こり震源が広域に広がる過去にない例なので、今後の予測が難しい」と発表。余震も続き、地震の影響で地盤が弱くなっている場所もあるため、少しの降雨でも土砂災害などに注意する必要があります。

さらに台風が来る季節でもあるので、風水害とともに土砂災害などの二次災害にも警戒が今後必要です。

### 情報収集のための手段—的確に正確な情報を取得しましょう—

#### ●熊本県防災情報メールサービス

地震や津波、気象注意報・警報、河川水位情報、土砂災害警戒情報、避難勧告などの必要な情報をメールでお知らせします。

##### ▶登録方法

entry@anshin.pref.kumamoto.jp に空メールを送信し登録してください。

#### ●熊本県統合型防災システム

県内の大雨などの気象情報や土砂災害警戒情報や河川の水位状況などをリアルタイムで確認できます。

##### ▶熊本県統合型防災システム

<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp>

#### ●災害用伝言板 (web171)

インターネットを利用して、大規模な災害が発生したときに、安否などの情報をテキストで登録・確認できる伝言板です。

##### ▶利用方法

<http://www.web171.jp> にアクセスしてご利用ください。

# 町から発令される避難情報と発令時にとるべき行動

区分	危険度	発令時の状況	発令時にとるべき行動
自主避難	低  高	自宅および周辺の状況により災害被害を感じた場合は、自らの判断で自主的に避難することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定された地域の避難場所への避難行動の開始</li> <li>親戚や知人宅などへ避難する</li> </ul>
避難準備情報		避難行動要支援者（高齢者や障がい者、乳幼児や子ども）など特に避難行動を開始しなければならない段階であり、災害の発生が高まった状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>要支援者など特に避難行動に時間を要する人は、指定された避難場所への避難行動を開始する</li> <li>要支援者などの避難を支援する人は、支援行動を開始する</li> <li>上記以外の方は、家族などへの連絡など避難行動準備を開始する</li> </ul>
避難勧告		通常の避難行動ができる者が避難行動をしなければならない段階であり、人的被害が発生する可能性が明らかに高まった状況	通常の避難行動ができる人は、指定された避難場所などのへの避難行動を開始する
避難指示		災害の前兆現象の発生や現在の切迫した状況から、人的被害の発生する可能性が非常に高いと判断された状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難勧告などの発令後で避難中の人は、避難行動を直ちに完了する</li> <li>いまだに避難していない人は、直ちに避難行動に移る。そのいとまがない場合には、無理な避難行動をとらずに自らの生命の守る行動をとる</li> </ul>

## 町が発令する避難指示・勧告

台風や大雨などにより災害発生の恐れがある場合は、住民の皆さんを災害から保護し被害の拡大を防止するため、町では避難に関する情報を発令します。避難区分を「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」の3つに分類され、さらに自らの判断で自主的に避難をする「自主避難」があります。

避難区分については、気象状態や河川の水位などにより判断され、町公式ウェブサイトで防災行政無線による一斉通報や携帯電話などの「エリアメール」、警鐘およびサイレンの吹鳴などで伝達されます。避難をする場合には、慌てずに周りの状況を確認して行動しましょう。

## 生命を守るために情報収集を

気象庁が発表する注意報や警報などは、災害による被害を最小限に抑えるために発表されます。テレビやラジオ、町、消防から発信される情報を常に収集・精査して、デマ情報などに惑わされないよう注意することが重要です。警報や勧告などがなくても、常に身の周りの状況に気を配り、身の危険を感じたときには、明るいうちに早めの避難を心掛けましょう。

## 災害の起きるシチュエーション—身の危険を感じたら早いうちに避難を—



土砂災害



台風



地震

# 災害に備えて

今、私たちができること

## 災害に備えて用意する非常持出品

### ●いつでも避難できるように準備しておくもの



- 食料品  飲料水  非常用食品（乾パンや缶詰など長期保存できるもの）
- 避難用具  防災ずきんやヘルメット  懐中電灯  携帯ラジオ  予備電池  
 笛やブザー  携帯電話（充電器含む）  万能ナイフ  手袋
- 貴重品  現金  預金通帳・印かん  健康保険証  身分証明書
- 衛生用品  救急セット  常備薬・持病薬  タオル  トイレットペーパー  
 ウェットティッシュ  着替え
- その他  雨具  生理用品  缶切り  粉ミルク・紙おむつ  
 ビニール袋  カイロ  携帯トイレ  マッチやライター  
 スリッパ  食品用ラップフィルム

### ●復旧までの3日間をしのぐ備蓄品



- 飲料水  ペットボトル（1人1日3ℓ）  貯水した防災タンク
- 食料品  米  缶詰やレトルト食品  梅干しや調味料  
 フリーズドライ食品・チョコレート・あめなど
- 燃料  卓上コンロ  ガスボンベ  固形燃料
- その他  生活用水  毛布・寝袋  洗面用具  調理器具  
 バケツ・アウトドア用品  ポリタンク

日ごろから防災意識を持って備えておくことが大切

熊本地震の発生時には、土砂災害により水道・電気などのライフラインが寸断されるとともに、道路や河川などが土砂災害などにより通行止めとなり流通が途絶え孤立する地域もありました。

大規模な災害時は、長期の停電や断水が発生し、支援物資の到着も遅れてしまう可能性もあるため、各家庭で3日間をしのぐ必要最低限の水や食料などを備えておくことが重要です。

避難指示などの発令のため、すぐに自宅に帰れず避難所などでの長期の生活を余儀なくされる場合もあります。

食料品などのほかに、着替えや常備薬など生活に必要な物をそろえておき、災害が起きたときにいつでも避難ができるように備えておきましょう。

## 自主防災組織で高める防災力—自分たちの地域を自分たちで守る—



▲2月船津区で行われた自主防災訓練

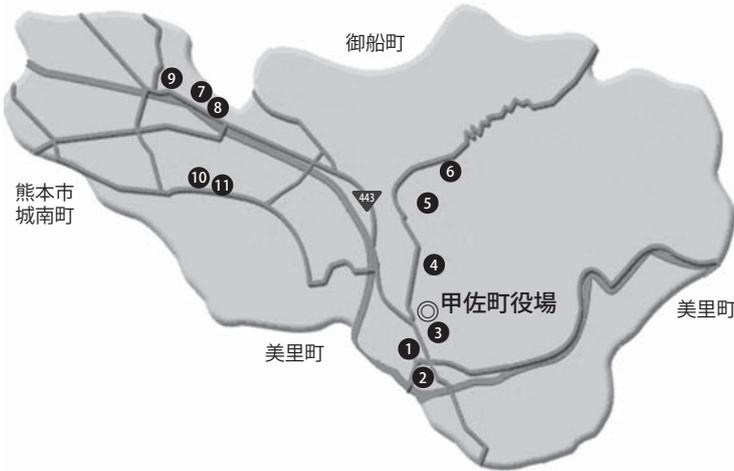
自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通の目的を持って、地域の人たちが自発的に結成する防災のための組織です。

災害発生時に消防団などが現場に到着するまでの間、地域で協力しながら人命の救助や消火活動をして、被害を最小限にとどめるために作られています。

皆さんの地区でも自主防災組織を設立して、地域の防災力を高めませんか。

▶お問い合わせ先  
町くらし安全推進室  
096-234-1167（内線241）

# 町内の緊急指定避難所マップ



## ●町内11か所の緊急指定避難所

避難所（施設）は、風水害などにより事前に避難が必要になった場合や地震などにより住宅が壊れたり失われたりするなどして生活ができなくなった場合などに開設します。

開設の際には、町から町公式ウェブサイトや防災行政無線、エリアメールにてお知らせします。

日ごろから、最寄りの避難所（施設）の所在地や道順などを確認し備えておきましょう。なお、居住地区以外の避難所、避難施設も利用することができます。

避難場所（所在地）		避難場所（所在地）		避難場所（所在地）	
①	町総合保健福祉センター (甲佐町豊内619)	⑤	龍野小学校 (甲佐町上早川1220)	⑨	上益城農業協同組合第一営農センター (甲佐町白旗543-1)
②	甲佐小学校 (甲佐町豊内613-1)	⑥	龍野福祉ふれあいセンター (甲佐町上早川334)	⑩	乙女小学校 (甲佐町津志田3037)
③	町農業研修センター「ろくじ館」 (甲佐町豊内719-2)	⑦	白旗福祉ふれあいセンター	⑪	乙女福祉ふれあいセンター (甲佐町津志田3037)
④	甲佐中学校 (甲佐町中横田300)	⑧	白旗小学校 (甲佐町白旗50)	※⑩乙女小学校と⑪乙女福祉ふれあいセンターは、熊本地震の影響により現在使用できません	

避難場所をあらかじめ確認し  
もしものときに備えましょう

災害が発生し避難しなければ  
ならない場合は、最寄りの避難  
所に避難します。

熊本地震や豪雨災害のように  
夜間避難をする場合や、勤務先  
から避難する場合も考えられま  
す。あらかじめ避難所の場所や  
経路を確認しておくことや避難  
時に必要なものを準備しておき  
いざというときにすぐ避難がで  
きる状態を整えておきましょう。

大切な生命を守るために今私  
たちができること

いづどこで、どのようなこと  
が起きる分からないのが災害の  
恐ろしさです。

大規模な災害が発生したとき  
に、被害の拡大を最小限にする  
ためには国や県、町などの公的  
な対応ももちろん必要ですが、  
自分自身での備えや自主防災組  
織など地域で防災活動に取り組  
むことが重要です。

災害に備えて今自分たちで  
できることを考えることが、自分  
の生命や大切な人の生命を守る  
ことにつながります。

### ▼お問い合わせ先

町くらし安全推進室

TEL 096・234・1167

## 避難場所とともに危険箇所も確認一日ごろから確認して備えましょうー

### ●洪水ハザードマップ、地震危険度マップ、ゆれやすさマップ

「洪水ハザードマップ」、「地震危険度マップ」、「ゆれやすさマップ」は、洪水や地震などが発生した場合の町内の危険箇所の情報や避難場所などの防災対策に関する基本的な事項を掲載しています。

各種マップは、町公式ウェブサイトに掲載していますので、事前に確認しておきましょう。

#### ▶町公式ウェブサイト

<http://www.town.kosa.kumamoto.jp>



▲甲佐町地震危険度マップ